

日本保険学会 平成22年度第2回理事会議事録

●日時：平成22年7月30日（金） 16：00～18：10

●場所：損保会館

1. 審議事項

(1) 入退会者

出口理事長より 入会者5名、退会者14名の説明があり、異議なく了承された。

(2) 平成21年度事業報告書（案）

理事長より 平成21年度事業報告（案）について、5月理事会の後、特段の意見がなく了承された旨、また、ホームページに掲載することとしたい旨の説明があり、異議なく了承された。

(3) 大会・総会関係について

創立70周年記念大会関係

- ・ 江澤22年度大会委員長より 大会の準備状況ならびに大会プログラムの現時点での決定状況につき、報告があった。
- ・ 理事長より、シンポジウムのメンバーの人選につき、生保に偏りすぎているのではないか、これまでの大会では生損保のバランスを考えて人選をしていたと思うが、との問題提起があった。
- ・ 議論の結果、損保業界からもシンポジウムのパネラーを1名招聘することとし、人選については、損保総研に一任することとした。（8月4日に三井ダイレクト損害保険株式会社の北尾氏がパネラーとして加わることが決定された。）

平成23年度大会関係

- ・ 理事長より 来年度大会は神戸学院大学での開催を予定しているが、大会委員長に内定していた岡田理事が7月に学長に就任されたため、大会委員長は、同大学の赤堀勝彦会員が務めることになったとの報告があり、これを了承した。次いで、赤堀会員からの挨拶があった。
- ・ 来年度大会の「シンポジウム」「共通論題」のテーマにつき、事前に各理事から寄せられたアンケートにもとづき、予備的な議論が行われた。10月23日に実施が予定されている新年度第1回の大会企画部会では、本日の議論を参考にして、討議することとした。

(4) 日本保険学会賞の創設

前回、時間の関係で、未決定であった詳細の検討項目につき検討し、以下の通り決定された。

- ・ 著書の表現等：「著者」「単著」「共著」「共著者」とする。

- ・選考委員会員数：合計 5 名（うち、商学・経済学系 3 名、法学系 2 名）
- ・委員の選任方法：企画委員会の推薦にもとづき、理事会が決定する。

この内容にて10月の学会総会において承認を求めることとした。

（５）会則第6条改正

前回理事会に引き続き企画委員会提案の「非会員との共同研究報告（６条）」につき、議論が行われた。これは、「共同研究報告を大会や部会で行う場合、少なくとも、研究報告者本人が会員であることを要件とし、その他の共同研究者については、会員であることは要しない」というかたちに会則を改正したらどうか、というものである。事前に理事各位から採ったアンケートで見ると、賛成意見が多いが、強い反対意見も出されたことから、当面は現状を変更しないこととした。

なお、前回の理事会で了承された２点（九州支部委員の創設、購読会員の名称変更）については、10月総会にかけ、学会会則改正の運びとなる。

（６）会員増強策

会員増強策につき、初めて議論を行った。

理事長より 会員数が多ければ、それだけ学会の資金が潤沢となり、活動を活発にできる。現状は最盛期の1400名に比べ、900名まで会員数が減少しているという問題提起があった。

次いで、各理事から事前アンケートに基づき、意見表明があった。

なお、近年の保険会社数、保険会社職員、大学の保険専任教員数の減少をふまえると、現在の会員数が「本来あるべき人数に対して不足している」のか、「厳しい状況下にもかかわらず、よく会員数を維持している」のか、まずは、現状の分析が必要であるとの意見があった。本件は企画委員会で検討し、理事会に報告させることとした。

（７）名誉会員の推薦について

理事長より「名誉会員推薦基準に関する理事会申し合わせ事項」に基づく下記１名を10月開催の総会において、名誉会員に推薦したい旨の説明があり 異議なく了承された。

- ・ 前川 寛（慶應義塾大学名誉教授）

（８）その他

理事長より、今年度は理事の半数近くが退任する予定であるが、これまでの理事の貢献に対して、なんらかのかたちで感謝の気持ちを表明すべきではないか、との提案があった。論議の結果、対象者の範囲ならびに記念品の選定などにつき、江澤大会委員長に一任することとした。

２．報告事項

（１）賛助会員

事務局より 平成22年度賛助会員につき、（株）かんぼ生命から6月7日に、「生命保

険協会を通じて寄付を行っているので、今年度から単独の寄付をとりやめたい。」との申し出があった、との報告があった。これにより、今年度の賛助会費総額は、当初予算より10万円少ない655万円となる見込みである。

(2) 委員会等報告

国際交流委員会関連

(a) AIDAパリ出張報告

山野理事より、以下のとおり報告があった。

- 開催日：平成22年5月17日（月） - 20日（金）
- 開催場所：フランス、パリ
- テーマ：気候変動の問題に対応する保険新商品の開発
- 派遣者：山野 嘉朗理事

今年のAIDA大会では、「気候変動と保険」が中心テーマのひとつであり、AIDA本部の要請に応じて日本支部として報告書を送ったところ、当日の会議で山野理事が報告を求められ、気候変動問題に対応して日本の生損保各社が様々な取り組みを行っていることを報告し、会場の注目を集めたもの。

また、山野理事からは、これまで学会とAIDA本部との連携が不十分であったのではないかと、との問題提起がなされた。これを受けて、理事長からもAIDAでは様々な興味深い分科会も開催されているので、学会として AIDAへの対応につき、検討していくべきとの発言があった。

なお、理事長より、以下の報告があり、了承された。

- ・今年度は、AIDAの理事改選期にあたることから、昨年の理事会決定にもとづき、山野理事をAIDAの新理事に推薦することとしていたが、結局、大谷早稲田大学教授が理事に再任された。
- ・AIDAの理事ポストは、個人的色彩が強く、学会理事会が推薦したことで自動的に決まるものではないことが、今回分かった。今後のAIDA理事ポストをめぐることは、AIDA事務局との対応を含め、継続的に検討していきたい。

(b) 韓国保険学会出張報告

派遣者の福田理事より 韓国保険学会2010年度創立記念学術大会の開催状況について報告があった。なお、福田理事の通訳を務めた金 亨冀氏（東部火災）が、10月の学会大会に韓国保険学会を代表して記念報告をされる予定である。

- 開催日：平成22年5月28日（金）
- テーマ：改正保険法における今後の課題について
- 派遣者：福田 弥夫理事

保険学雑誌編集委員会

事務局より 大会・部会報告の「保険学雑誌」への掲載状況についての報告があった。また、吉澤理事より 来年12月発行予定の特集号企画「最新海外保険事情」に

つき、「保険学雑誌」609号で原稿募集をしたものの、応募が少ないので、締切日を9月末まで延長し、学会ホームページならびに大会案内時に原稿募集文書を同封することで宣伝したい、との報告があった。

関東部会、関西部会、九州支部

江澤理事、羽原部会長より それぞれ6月部会の実施状況の報告があった。また、事務局より7月31日に九州支部例会が実施予定であるとの報告があった。

以 上